

2023 年 度
一 般 選 抜 試 験 問 題

国 語

(60 分)

(100 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 工学部は、国語・英語のいずれか 1 教科を選択、感性デザイン学部は、国語・英語・数学の中から 2 教科を選択して解答しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等がある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
4. 筆記用具は、黒鉛筆または黒のシャープペンシルに限ります。
5. 解答用紙に受験番号を記入しなさい。
6. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国語

第1問

次の(1)～(5)の傍線を引いたカタカナの部分に漢字に直し、解答欄に記せ。(配点 10)

- (1) 行動の規制をカンワする。 (2) 感染症対策をコウじる。 (3) 土砂災害のケイカイ区域を確認する。
(4) 市街地のヘンセンを調べる。 (5) 脱炭素社会がトウライする。

第2問

次の(1)～(5)の傍線を引いたカタカナの部分であらわす漢字として最も適当なものを、それぞれア～エから一つずつ選び、その記号を解答欄に記せ。(配点 10)

- (1) 不眠フキユウで復旧工事をスる。 ア 普及 イ 不急 ウ 不休 エ 不朽
(2) 新規の住民をソガイしてはならない。 ア 阻害 イ 素害 ウ 訴外 エ 疎外
(3) 彼はシンギに厚い好青年だ。 ア 審議 イ 信義 ウ 心技 エ 神技
(4) 今度の試合に念願の初優勝がカカる。 ア 懸 イ 係 ウ 架 エ 罹
(5) ようやく希望の職にツイた。 ア 着 イ 付 ウ 尽 エ 就

第3問

次の(1)～(5)の傍線部の読み方を解答欄に記せ。(配点 10)

- (1) 前例に倣う。 (2) 突然の知らせに仰天する。 (3) 武力で威嚇する。
(4) 名文を暗誦する。 (5) 当選する確率は皆無に等しい。

第4問

次の(1)～(5)の四字熟語の□には選択肢の平仮名に対応する漢字一字が入る。それぞれ漢字に直し、解答欄に記せ。
(配点 10)

- (1) 荒 無稽 (2) 前代未 (3) 誹謗中 (4) 一念 起 (5) 平 無事

しょう とう ほつ おん もん

第5問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(配点 10)

私たちが想像する理想的な避難とは、次のようなものではないだろうか？ 科学的な分析によってどこで災害が発生するのかを的確に予測する。(1)それに従って人々に情報を伝えて避難してもらう。人々は災害が発生する前に危険な地域から逃げており、家屋などの被害は生じたものの、失われた命はなかった、と。

科学技術の発展によってこのようなストーリーが実現できると考えている専門家はいるのだろうか？ 確かに台風の進路や降雨量などに関する予測精度は飛躍的に上がっている。しかし、災害の発生を予測する精度はそれに比べると決して高いとはいえない。今後、その精度を高めることも非常に難しいだろう。災害の発生を的確に予測し、人々に避難情報を伝え、逃げるべき人に逃げてもらうというシナリオの実現可能性に、(2)私は否定的である。

人は情報だけで行動を起こすことは苦手なのである。人は目の前に危険が迫れば、強い感情が喚起されて行動することができる。しかし、目の前に危険がなく、情報だけで危険を知らされても行動することは難しい。

人類の長い歴史を考えると、情報で危険を知らされるようになったのは、ごく最近のことである。情報だけでは私たちに強い感情は喚起されず、行動を起こすことは難しいのである。災害時の避難に関しては、このような人間と情報の関係を十分に理解する必要がある。

(出典 元吉忠寛著「命守れる場所 考えて」より抜粋 東奥日報2021年7月13日)

問 1 傍線部(1)「それ」とは何か。本文中の言葉を用いて十字以内で答えよ。

問 2 傍線部(2)「私は否定的である」と筆者が考える理由を、「避難」「情報」「行動」の三つの語を必ず用いて、解答欄に合うように、五十字以上六十文字以内で説明せよ。読点等も一字と数える。

第 6 問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、出題の都合上、文章を一部変更したところがある。(配点 10)

広い意味でいうと、例えば、地元の素材を使い、食料加工品を生産することは、農商工連携のひとつの形態といえるかも知れない。地域経済活性化という視点からみても、地域資源である農産物の消費量が増え、地場食料品製造企業の業績が向上することによって、新規の雇用が発生するとすれば、十分効果があったといえる。

このような個々の取り組みの積み重ねは、地域経済活性化にとって、非常に重要であり、基礎的な要件ともいえるだろう。しかし、他地域との地域間競争を勝ち抜いていく上で、個々の農家や中小企業の取り組みだけに頼っているのは、今後、競争に勝ち残っていくことが出来るかどうかは不透明である。そこに様々な農商工連携が必要となってくる。(中略)

資本力の少ない東北地域などの地方圏にあつては、基本的には、大量生産品目では大都市圏や既存の産業集積地に打ち勝つことは難しい。また、価格競争をおこなうことは、結局、地域内に還元する資金レベルが低くなることから、人手をかけたつて出来るだけ付加価値が高く競争力のある商品をマーケットに投入していく必要が考えられる。

そのため、そのような付加価値が得られるような「商品開発」が必要であり、商売ベースに乗せることが出来る「販路開拓」をおこなわなければならない。そして、一旦、マーケットに出た商品の価値を維持するためには、「品質評価」を絶えずおこなない、市場のニーズを敏感に察知できるようにしておく必要がある。これらの必要性はわかっている、個人や中小企業では対応力に限界があり、良い商品が出来ても、うまく販売できるとは限らない。そこに、行政なども含む「地域の支援」の重要性があり、地域が一体となった取り組みが求められる。

国語

このような背景をもって農商工連携を考えた場合、地域の農商工の各経済主体が個々に十分に機能し、競争力を持つことも重要である一方、地域内の農商工の担い手が連携すると共に、行政や消費者としての地域住民なども含んで、地域の競争力向上に努める必要があると考えられる。

つまり、「その地域」に住む人、関連する人「全て」が同一の地域の価値を認識し、それを向上させようとする行動をとることが必要と考えられる。農商工連携は、このような行動の一環としてのひとつの手段と考えられるだろう。従って、地域の中小企業や農林水産業従業者など現場の連携による成果の発現を促すと共に、地域が一体となって彼らおよび彼らの取り組みを支援していく仕組みづくりが求められる。

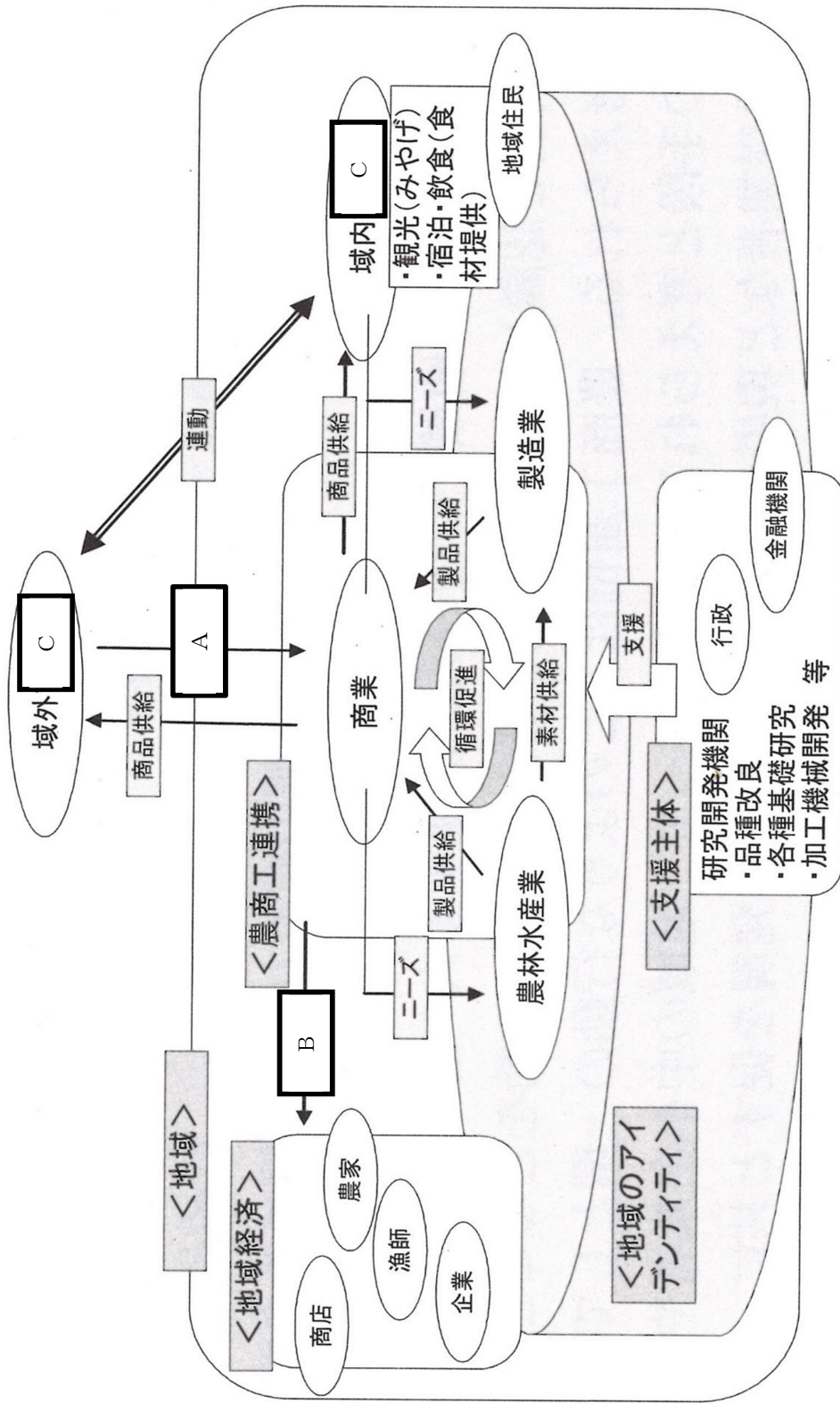
これらを総合すると次頁の図表のようになる。

地域において、域外市場からの需要獲得のために、域内の農林水産業、工業、商業関係者が商品を作り出し、その成果として雇用等を発生して地域経済に貢献する。域外市場において競争力を得るための仕掛けとして、まず、それらの商品が地域の「歴史」、「特産物」、「文化」等のアイデンティティに彩られ、域内市場におけるスクリーニングを十分に受けていると共に、商品開発や品質管理の部分について行政等の支援を得ている。

(出典 財団法人東北産業活性化センター編『農商工連携のビジネスモデル』日本地域社会研究所)

問1 傍線部「これらを総合すると次頁の図表のようになる」について、次の頁の図表の空欄 A、B、C にあてはまる語句として最も適当なものを、本文中から一語(漢字二字)で抜き出して答えよ。なお、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。

問2 この文章の標題を「地域経済活性化と」D「とするとき、空欄 D にあてはまる語句として最も適当なものを、本文中から五文字で抜き出して答えよ。



国語

第7問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、出題の都合上、文章を一部変更したところがある。(配点 40)

定住生活は、五〇キログラムもの体重があり、しかも集団で暮らす動物の生活様式としては、きわめて特殊である。a 強いて言えば、川や湖に棲むカバの生活がこれに近い。しかし、この場合、彼らの排泄物は水に流され魚が食べる、ということがある。陸上では(1)このような効果的な浄化作用は望めない。

定住、あるいは巢に棲む大きな動物のいない理由は、同じ場所に長く留まることによつて必然的に生じる環境汚染を防ぐことがきわめて困難であり、また、同じ場所で餌を食べれば、食料資源は減少して環境条件が悪化するためである。カバに見られる固(原文ママ)体単位の採食テリトリー制は、(2)これを防止する機能を持つのであろう。

捕食獣にたいする b 防衛は人間の場合にはあまり問題にならないが、しかし定住すれば、ノミやダニ、ナンキンムシなどの外部寄生虫や病原菌の増加は避けられない。大型動物の定住的な生活は、動物の一般的な生き方として不都合が多い。人類はそれらを克服して定住生活を c 営む。しかし、それが克服できたからといって不都合がなくなつたのではない。ただそれを内に抱えて、だましましたし生きるだけのことである。

前章で述べたが、現在の遊牧民がキャンプを移動させる理由には次のような機能が働いている。

(1) 安全・快適性の維持

a 風雨、洪水、寒冷、d 酷暑を逃れる。

b ゴミ、排泄物の A から逃れる。

(2) 経済的側面

a B、水、原材料を得るため。

b 交易。

c 協同 e 狩猟。

国語

- (3) 社会的側面
- a キャンプ成員間の C の解消。
 - b 他集団との緊張関係から逃れる。
 - c 儀礼、行事をするため。
 - d 情報交換。
- (4) 生理的側面
- a 肉体的、心理的癖としての移動。
- (5) 観念的側面
- a 死者のでた場所、あるいは死体からの逃避。
 - b D からの逃避。

遊動民のキャンプ移動の持つ機能は、生活のあらゆる側面にかかわっている。(3)遊動生活とは、ゴミ、排泄物、不和、不安、不快、欠乏、病、寄生虫、退屈など悪しきもの的一切から逃れ去り、それらの蓄積を防ぐ生活のシステムである。移動する生活は、運搬能力以上の物を持つことが許されない。わずかな基本的な道具の他は、住居も家具も、さまざまな道具も、移動の時に捨てられ、いわゆる富の蓄積とは無縁である。掛谷誠は、遊動する「狩猟採集民の社会では、生態・社会・文化のシステム全体が、f 妬みを回避するように機能して」おり、「病因論においても呪いは基本的に存在せず、あつてもきわめてマイナーな位置しか占めない」と述べている(注)。彼らは妬みや恨みすら捨て去るのであろう。

一方、(4)定住生活とは、これら一切を自らの世界に抱える生活システムである。この生活を維持するには、ゴミ捨て場を定め、便所を作るなどして環境汚染を防止しなければならない。不和や葛藤、不安の蓄積を防ぎ、すみやかに解消するために社会規範や権威が要求され、あるいは不安や災いの原因を超自然的世界に投影し、それをコントロールし、納得するための儀式やg 呪術が用意される。離合集散するルーズであった社会は、地縁的な境界で区切られ、死体との共存は、死者の世界と生きている人間世界

の空間的、観念的分割によって了解される。世界はさまざまに分割され、それがまた社会的緊張関係のより大きな単位となる。定住した人間は、継続的な薪用の樹木の伐採などによって村の周囲の森を二次植生にかえる。縄文時代の村むらには、そこに⁽⁵⁾クリやクルミが生育していたし、フキやワラビ、ウド、ミツバなど、明るい場所を好むさまざまな植物が増えたであろう。定住した人間とこれら有用な陽生植物とはおのずと共生関係を深め、植物栽培が始まる。植物栽培の出現は、定住生活をもたらした意外で重要な効果であった。

だが、食料生産をコントロールすることによって、あるいは、大きく効率的な道具の使用によって得られたエネルギーは、しかし、不和や抗争、不安、退屈、人口増加、環境悪化など定住社会が抱え込んだ問題を克服するために消費しなければならぬ。定住以後五〇〇世代を経て、人類のエネルギー消費が地球的規模の環境汚染をおこすほどに増加してもなお、⁽⁶⁾これらの問題は解消されるべきでもない。

この一万年の人類の歴史は、その過程に新石器時代革命や、国家や文明の出現、市民革命、産業革命などを含みながらも、それらは全体として行方さだめぬ「定住革命」の過程をたどっているのではなからうか。

(出典 西田正規著『人類史のなかの定住革命』講談社学術文庫)
 (注) 掛谷誠：日本の文化人類学者。引用は、『妬み』の生態人類学(大塚柳太郎編『生態人類学』現代のエスプリ別冊、一九八三年)より。

問1 文中の二重傍線部 a、h の読み方を解答欄に記せ。

問2 傍線部(1)「このような効果的な浄化作用」が指しているのは何か。本文中から探し、解答欄に合うように過不足なく抜き出して解答欄に記せ。

問3 傍線部(2)「これ」が指しているのは何か。本文中から探し、解答欄に合うように過不足なく抜き出して解答欄に記せ。

問 4 空欄 に入る語句として最も適当なものを、それぞれア～クから一つずつ選び、その記号を解答欄に記せ。

ア 機能 イ 災い ウ 蓄積 エ 浄化 オ 不和 カ 食料 キ 規範

問 5 傍線部(3)「遊動生活」および傍線部(4)「定住生活」について、本文で述べられている内容に合致しないものを、ア～エから一つ選び、その記号を解答欄に記せ。

ア 遊動生活ではゴミや排泄物、欠乏や病などから逃れ去り、それらの蓄積を防ぐ。
イ 遊動生活では基本的な道具の他に、住居や家具も移動の際に運搬される。
ウ 定住生活ではゴミ捨て場を定め、便所を作り環境汚染を防ぐ。
エ 定住生活では不和や葛藤、不安の蓄積を解消するために社会規範を定める。

問 6 傍線部(5)「クリやクルミが生育していたし、フキやワラビ、ウド、ミツバなど、明るい場所を好むさまざまな植物が増えた」について、これらの陽性植物は定住生活の食料生産方式にどのような恩恵をもたらしたか。本文中から探し、一語で抜き出して解答欄に記せ。

問 7 傍線部(6)「これらの問題」が指しているのは何か。本文中から探し、過不足なく抜き出して解答欄に記せ。

問 8 本文で述べられている内容に合致しないものを、ア～オから一つ選び、その記号を解答欄に記せ。

国語

- ア 巢に棲む大型動物がいない理由は、同じ場所に長く留まることによって生じる環境汚染を防ぐことが困難だからだ。
- イ 遊動生活は、悪しきもの一切の蓄積を防ぐ生活システムで、富の蓄積とも無縁であり、妬みや恨みすら捨て去る。
- ウ 定住生活を維持するには、不和や葛藤、不安の蓄積を解消するために社会規範や権威が要求され、不安や災いの原因を超越自然的な世界に投影し、それをコントロールし、納得するための儀式や呪術が用意される。
- エ 遊動生活においては離合集散するルーズな社会であったが、定住生活では地縁的な境界で区切られ、死体との共存は、死者の世界と生きている人間世界の空間的、観念的分割によって了解される。
- オ 一万年の人類の歴史は、その過程に新石器時代革命や、国家や文明の出現、市民革命、産業革命などを経て、定住革命後の発展を遂げている。